

佐渡米通信

こめへる

2025年 10月号

発行日:2025年10月

発行: 佐渡農業協同組合 担当: 総務部企画総務課 駒形(葵)
jasadosoumu02@snw.ocn.ne.jp

令和7年産米初検査

9月10日に令和7年産米の初検査を行いました。JA佐渡管内で収穫された主力品種のコシヒカリや早生品種のこしいぶき、ゆきん子舞、酒米の五百万石の4種類を合わせたおよそ43トンが検査され、1等米比率は88.0%でした。

今年度は初検査でコシヒカリの集荷がありました。出穂期後の平均気温が高く積算温度が基準に達し、収穫適期が例年よりも早まりました。コシヒカリの品質が良かったことに対して、JA佐渡では高温対策として3年前から呼びかけを行っている追肥対策が生産者の方々にしっかり伝わってきたことに加え、穂が出てからの降雨も幸いしたと考えています。

JA佐渡では9月末頃をコシヒカリの初出荷としております。総集荷量としては、1万4,000トン以上を目指して安定供給に努めて参ります。

■初検査の集計結果

	等級	検査数量(kg)	
		R7年産米	R6年産米
コシヒカリ	1等米	3,540	—
	2等米	—	—
こしいぶき	1等米	13,980	22,440
	2等米	—	2,070
ゆきん子舞	1等米	9,450	6,900
	2等米	3,150	—
五百万石	1等米	11,340	9,600
	2等米	2,070	—
合計		43,530	41,010

「朱鷺と暮らす郷」推奨店産地交流会開催

8月末に「朱鷺と暮らす郷」推奨店に加盟している米穀店の方々に来島して頂き、産地交流会を開催しました。意見交換会の中で、佐渡米が卸業者から入荷されない期間があったとのことで今年度の収量について心配するご意見を頂きました。売り場の棚に商品がないと販売機会を逃してしまうだけでなく顧客からの信頼を損ない、今後の販売展開にも影響する問題であるとJA佐渡としても深刻な事案として受け止めています。昨年度から集荷量の確保のための個別の農家への訪問を行っており、JA佐渡の全職員が7年産米の集荷に向け地道に声掛けをしています。

生産者数の減少についてご指摘を頂きましたが、JA佐渡では就農者減少の対策として2021年から担い手育成支援に取り組んでいます。昨年の春に4名が就農し、そのうち1名が米の生産を行っております。その他にも将来的には、お米作りを始めることを見据えて準備している方もいます。今回、年齢の若い方が就農されていますが、以前インタビューをさせていただいた際にどの方も視点は違えど農業に魅力を感じられている印象を受けました。JA佐渡では若い頃から農業の魅力を知ってもらうことが大切と考え、小学生へのお米作り体験を地元生産者の方の協力のもと取り組みを続けております。圃場視察の現場へ歩いている際に推奨店の方から、これからの未来をつくる高校生を応援したいとの思いから佐渡総合高校のお米も販売していると伺いました。若い世代への農業の希望を抱くきっかけづくりへの思いが一緒であるということに勇気を頂きました。

本交流会はお陰様で参加して下さる推奨店の方が年々増えています。朱鷺と暮らす郷の米袋のデザインの基となった風景を実際に見て頂き、佐渡米を消費者へ自信を持ってお勧め出来る良い機会に繋がってもらいたいと考えております。



珍しい朱鷺の羽根を圃場で発見!



推奨店の方たちから様々な意見を頂いた交流会



朱鷺と暮らす郷認証米の「生きものを育む農法」を体感



令和7年度「朱鷺と暮らす郷推奨店産地交流会」参加者の皆様